

丸山タンク ~諏訪湖の水が糸になる~

◆丘の上のタンク

丘の上に金属製タンクの台座としていた三重円筒型の巨大なレンガ積が残されている。外周約38m、高さ約2m、壁の厚さは61cmの外壁の内側にコンクリート造りの環状壁を二重（直径約7.3mと3.1m）に内包している。

◆水は製糸の生命線

品質の良い生糸を製造するためには、良質の水が豊富に必要であった。明治中期以降、製糸工場の規模が拡大するにつれ、新屋敷などでは水不足が深刻化した。そこで「丸山製糸水道組合」が結成され、タンクは大正3年10月に竣工し、天竜川からポンプで水を汲み上げ、塚間川以西の製糸業地帯への給水した。



金属製タンクを乗せたレンガ積の台座が残る。



コンクリート製の二重環状壁